

## 基本理念

### 自然を生かしたまち・なかつがわ

豊かな自然資源を利用した再生可能エネルギーの導入により、環境に配慮した低炭素地域づくりを目指すとともに、農林業をはじめとした地域の産業の振興、自立分散型エネルギーを活用した防災対策など、市民が自然の恵みを受用できる「自然を生かしたまちづくり」に取り組みます。

## 基本方針

### ■ 地域資源を生かした再生可能エネルギーでの低炭素地域づくり

市において豊富に存在する水資源や森林資源は、都市にはない中山間地ならではの地域資源ですが、これらの資源が有効活用されていないのが現状です。当市では太陽光発電はもちろん、小水力発電や木質バイオマス熱利用など、この地域ならではの地域資源を活用したクリーンエネルギー開発による低炭素地域づくりを進め、地球環境問題の解決に向けた責務を果たしていきます。

### ■ 災害に強い自立分散型エネルギーの普及促進

市は県内唯一の東海地震の地震防災対策強化地域であり、また中山間地で各地域拠点が分散していることから、災害時の各集落の孤立が懸念されています。そこで、各地の防災拠点における再生可能エネルギーを導入し、緊急時でも電気や熱が利用できる自立分散型のエネルギーシステムを構築していくことで、災害にも強く環境にも優しい安心安全なまちづくりを目指します。

### ■ 地域産業の活性化に向けた再生可能エネルギー施策の推進

市にある豊かな自然は地域の宝であり、市が誇る地域の産業資源でもあります。この森林資源や水資源を再生可能エネルギーとして有効活用することももちろん、農林業の6次産業化や観光・工業の振興など地域産業の活性化にも結びつけ、環境と経済の好循環を図ることで環境先進都市なかつがわを目指します。

## 計画期間

### 2013年度から2020年度まで

上位計画である「中津川市地球温暖化防止実行計画」に合わせ2020年を目途とする。

## 当市で推進する再生可能エネルギー等の技術と導入目標（案）

目標の根拠：中津川市地球温暖化防止実行計画、中津川市地域新エネルギービジョン

### 太陽光発電

当市での賦存量は多くはないが、固定価格買取制度により経済性も担保されやすくなった。家庭や事業所での普及を目指す。

- 目標：家庭部門 全世帯の10%（～20%）以上に普及  
事業所等 アンケート等の結果を踏まえ検討



### 太陽熱利用

太陽光発電同様、賦存量は多くはないが、エネルギー効率に優れ、比較的安価に導入が可能。主に家庭を中心に普及を図る。

- 目標：家庭部門 全世帯の10%（～20%）以上に普及  
※太陽光発電と同程度を検討



### 小水力発電

市内に多くある河川や水路を生かし、小水力発電の開発を継続して進める。目的や規模に応じて、行政や地域の取組を目指す。

- 目標：中規模 2基以上設置（小郷・西山など）  
小規模 8基以上（毎年1件補助金を交付）



### 木質バイオマス熱利用

市の面積の8割が森林である特性を生かし、地域経済の活性化と絡め、主に薪ストーブやペレットストーブ、バイオマスボイラーの普及を進める。

- 目標：家庭部門 3年程度の研究・検討を行い事業化  
公共施設 率先的な設置（数値目標は今後検討）



### その他、再エネ付帯技術（LED等）

老朽化が進んでいる既設の蛍光灯や街路灯、取替えが困難な高所照明等を、リース等の手法も活用しながら、まとめて高効率照明に交換し、省エネを図る。

- 目標：屋内照明 銅鉄式蛍光灯は全て高効率化  
屋外照明 小規模な共架式街路灯は全てLED化

